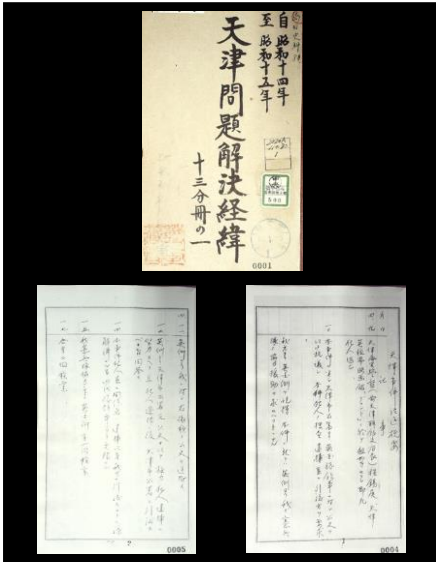


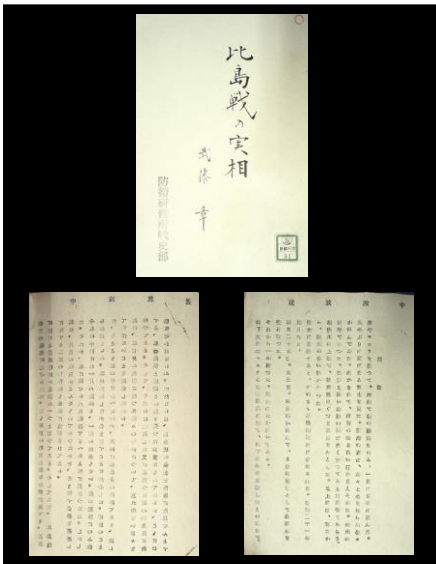
平成29年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 武藤 章 1892～1948年 》
—熊本県出身の陸軍中將—



天津問題解決経緯 (登録番号：中央-戦争指導重要国策文書-500～512)

武藤章中將は、大正2年5月陸軍士官学校(25期)を卒業後、昭和13年7月北支那方面軍参謀副長に就任、現地軍代表として天津問題解決に当たります。これは、昭和14年4月9日天津英租界で発生した中国官吏へのテロ事件に際し、英国が容疑者を引渡さなかったことから、6月14日北支那方面軍が英租界と外部との交通を遮断、租界内の治安維持や通貨をめぐる日英間の係争に発展した問題です。7月15日より現地軍代表を招致した日英会談が東京で開催され、22日有田八郎外相とクレギー駐日英大使との間で原則的理解に達します。しかし26日米国の日米通商航海条約廃棄通告により英国の対日宥和策は転換し、爾后会談は行き詰ります。これら経緯は、「天津問題解決経緯」(全13分冊)に記されています(他に「天津英租界遮断」中央-戦争指導重要国策文書-775)。



比島戦の実相 (登録番号：比島-日誌回想-51)

昭和14年9月陸軍省軍務局長に転出した武藤は、昭和17年5月、初めての軍隊指揮官となる近衛師団長に着任、スマトラ島の防衛に任じます。昭和19年10月5日、米軍の太平洋反撃作戦が勢いを増すなか、第14方面軍参謀長に就任、山下方面軍司令官のもとで比島防衛作戦を実施しますが、昭和20年9月3日米軍に降伏。終戦後は、極東国際軍事裁判において、A級戦犯として死刑を宣告され、絞首刑に処せられます。この史料は、巣鴨拘置所に収容された武藤が、獄中において記した「比島戦の実相」です。この中で武藤は、「比島の戦闘がどんなものであったかを、書き残す必要を痛感した。それが、私に課せられた義務でさへある」と記しています(他に「武藤章手記」中央-戦争指導重要国策文書-775、『比島から巣鴨へ』実業之日本社、1952年、『軍務局長武藤章回想録』芙蓉書房、1981年)。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)
外線：03-3260-3011
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：www.nids.mod.go.jp